

図書館だより

4月号

2023年4月27日
安田小学校図書館



■さあ、何を読もうかな？

本の貸し出しが始まりました。どの本を読もうかとわくわくしている人がたくさんいますね。

本が好きになるコツは、自分の気に入った本を見つけて、次々に読んでいくことです。読んだ本について誰かとおしゃべりしたくなったら、ぜひ図書館へ来てください。みなさんと本の話をするのを楽しみにしています。



1年生の図書館開き。楽しいお話を聞いて、図書館が大好きになりました。

保護者の皆様へ

本がとても好きで、1年間に300冊近くを借りる子どもに出会ったことがあります。その子に「どうしたら本が好きになるの?」と聞くと、「先生、本を読んだら読んだ数だけ本のことが好きになるんだよ。」と教えてくれました。

本を読むのが楽しいと感じる子供は、どこかで「本を読んだら楽しかった」という経験をしています。そのためには、自分の経験や興味に強く響く1冊に出会わなければなりません。それがどの本なのか、いつ出会うのかは誰にもわからないのです。ですから、小学生の今、なるべくたくさん本を次々と読んでもらいたいと思っています。

今年度、最初の図書の時間に「本の話たくさんしましょう。」と伝えました。クラス、学年、そして学校全体で本の話が飛び交うような雰囲気づくりをして、本好きな子どもをもっと増やしていきたいと考えています。ご家庭でも、保護者の皆様の読んでいる本や思い出の本の話をして差し上げてください。きっとお子様は目を輝かせて聞かれることと思います。

しおりについて

図書館では、期限票とスタンプカードの両方の役割をする「しおり」を使っています。

しおりは読書冊数の記録として保存するため、カードリングやリボンなどで束ねてご利用ください。しおりの枚数がたまると「これだけ読んだ」という自信につながり「もっと読もう」という意欲を持つことができます。しおりは筆箱ではなく連絡袋で保管します。おうちでも「たくさん借りているね。」「一緒に読みたいな。」と声をかけてくださると励みになります。前の学年のしおりはご家庭で保存されるか、そのままたばね続けていただいてもかまいません。



学年別おすすめの本



国語の教科書にある「〇年生の本だな」から、楽しく読める物語を紹介します。

1年生

『だいくとおにろく 日本の昔話』

松井直/再話 赤羽末吉/画 福音館書店



川にかけてやった橋と引き換えに、目玉をよこせという鬼。だいくが嫌がると「そんなら、おれのなまえをあてればゆるしてやってもええぞ」。日本画を学んだ赤羽が、絵巻物を意識して作画した、迫力ある横長絵本。

2年生

『きいろいばけつ』

もりやまみやこ/作 つちだよしはる/絵 あかね書房



きつねのこが橋のたもとできいろいばけつを見つけました。「ずっとそこにおきっぱなしだったら、きつねくんにしたら。」と友達に言われて、きつねのこは毎日毎日ばけつの所に通います。そしてとうとう約束の1週間がたちました。

3年生

『やさしい大おとこ』

ルイス・スポン・キン/作・絵 こみやゆう/訳 徳間書店



大おとこは、山からおりて来ては村人に、友達になりましょと話しかけます。でも、みんなは怖がって耳をふさいでいるのでそれを知りません。そればかりか、悪い魔法使いのせいで村人は大おとこのことをおそろしいどろぼうだと信じ切ってしまいます。

4年生

『チョコレート戦争』

大石真/作 北田卓史 理論社



金泉堂のケーキやシュークリームはみんなのあこがれ。ところが、うっとりとしょろけをのぞきこんでいた明と光一の目の前で突然ガラスがくだけ散った。子どもたちは、二人を犯人だと決めつける店の人と、ある方法で戦う決心をする。1965年初版の、大人にとって懐かしい名作。

5年生

『空へつづく神話』

富安陽子/作 広瀬弥/絵 偕成社



理子(さとこ)の前に、突然えらそうな「神様」が現れた。昔のことをすべて忘れてしまっている神様の記憶探しをいやいや手伝ううちに、理子は古い土地の名前と不思議な蛾(が)の模様が、何か大切なことを示していることに気づく。そして神様の正体がわかったとき、恐ろしいほどの嵐が町をおそった。

6年生

『弟の戦争』

ロバート・ウェストール/作 原田勝/訳 徳間書店

病的に感受性が豊かで、弱いものが傷つくるのを放っておけない僕の弟。彼は、ある日を境に奇妙な行動をとるようになった。自分のことを湾岸戦争の前線にいるイラク兵だと思い込んでいるのだ。

ごく普通のアメリカの家庭に、弟を通して生々しい戦争が押し入ってくる描写に息がつかまる。振り返って、今、私たちはウクライナのニュースの向こうにある、人の息遣いを感じられているだろうか。

図書館だより



5月号

2023年5月25日
安田小学校図書館

■ブックチャレンジ

5・6年生の授業で「ブックチャレンジ」を行っています。「〇〇さんの書いた本を3さつ読む」「5月末までに10さつ読む」といった目標を立て、それを達成することができるように読書を進めていく取り組みです。

目標や感想を図書ファイルに記録する中で、「これ面白いよね」と友達同士で本の話題に花をさかしている姿を見ることがあります。気に入った本を「先生もどうぞ。」と貸してくれる子どももいます。読書体験を人と分かち合う楽しさをたくさん味わってほしいと思っています。

ブックチャレンジ

目標

6月末までに 6年生のたなかから3さつ読む！ 達成度 80%

選んだ本の題名	作者
夜間中学にようこそ	山本小児子

□ あらすじや感動したところ、人に伝えたいことを書きましょう。

私は夜間中学という学校のことを知りませんでした。私の中で夜間中学とは勉強だけをたくさんがんばると思っていたけど、それに加え、給食や休みの時間、楽しい事もあると知りました。そして僕は夜間中学が大好きになりました。夜間中学の生徒達が優しく温かく接してくれたことが、僕からのお礼です。

図書館のきまり

図書館のきまりを知る授業が全学年でありました。図書館は、子どもも先生も、みんなが自由に本を楽しんだり、くつろいだりする場所です。きまりをまもって気持ちよくすごしましょう。

図書館のやくそく

○返す日をまもろう ○本をたいせつに ○しずかに読もう



きれいな
てで



かきこ
み
しない



しっか
り
もつ

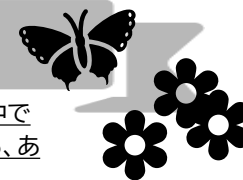


しお
りを
つかう



やぶれたら
カウンタ
ーに
もって
いく

庭は ふしぎへの とびら



庭は、自然のふしぎを感じることでできる場所ですが、本の中では、ファンタジーの世界の入り口になる場所でもあります。さあ、あなたが開くのはどちらのとびら？

低学年

『ルラルさんのにわ』

いとうひろし/作 ポプラ社



ルラルさんのじまは、きれいに手入れされたしばふの庭。ところがある日、その庭にわにがねころがっていたのです。しかも、そのわにはルラルさんに言いました。「ここにねそべてみなよ。きもちいいぜ」。

中学年

『庭をつくろう!』

ゲルダ・ミュラー/作 ふしみみさを/訳
あすなろ書房



大きな庭がある家に引っ越ししてきた家族は、さっそくあれた庭をととのえ始めます。小さなモミの木と池のあるぼくの花壇。野菜を育てる妹の畑。草とり、種まき、野菜の収穫と、ページをめくるたびに庭があるよろこびを感じることができる絵本です。

高学年

『トムは真夜中の庭で』

フィリパ・ピアス/作 スーザン・アインツィヒ/絵
高杉一郎/訳 岩波書店



弟が病気になったせいで田舎の屋敷でひと夏を過ごすことになったトムは、真夜中に「13時」の時計が鳴るのを耳にします。裏口から外に出たトムが見たのは、月の光に照らされた広大で美しい庭でした。彼は、そこで奇妙な女の子ハティと出会います。

『根っこのこどもたち 目をさます』

ジジレ・フォン・オルファース/絵 ヘルン・ディーン・フィッシュ/文
いしいももこ/訳・編 童話館出版



冬の間、土の中でねむっていた小さな小さな根っこのこどもたちは、土のおかあさんに起こされて春のしたくを始めます。服をぬって、虫にブラシをかけて……すっかり用意ができたなら、こどもたちは手に手に花を持って、のほらに出ていくのです。

『みどりのゆび』

モーリス・ドリュオン/作 安東次男/訳 岩波書店



お金持ちで恵まれた家に生まれながら、学校では落ちこぼれてしまったチトは、ある日、自分がどこにでも花をさかせることのできる「みどりのおやゆび」を持っていることを知ります。その力で、チトは刑務所や病院をつぎつぎに花と緑でいっぱいにしていきました。ところが。

『蝶が来る庭 バタフライガーデンのすすめ』

海野和夫/写真と文 草思社



昆虫写真家の海野さんが作った「バタフライガーデン」には、春から秋までさまざまなチョウやっています。あなたもチョウが好む花を育ててみませんか？植物がチョウを呼び寄せる力「集客力」が5段階で評価してあります。

図書館だより



6月号

2023年6月15日
安田小学校図書館

■図鑑はおもしろいね

3年生が図鑑の使い方を学習しました。
目次とさくいんの使い分けを復習したあと、写真に写った生き物や植物を調べてみました。

最初に「これはコアラかカンガルーだと思うよ。」「サルじゃないかな?」とペアで相談しながら見当をつけ、その後、特徴を考えながら写真と見くらべました。図鑑で同じものが見つかる、思わず「あったー!」と声をあげてしまう児童もいました。インターネットで検索をすればすぐに答えが出てくるかもしれませんが、すぐに答えが出ない図鑑の前に、児童は「なにかな」「どこかな」と想像力を働かせることを楽しんでいるようでした。

図鑑は図書館で人気がある資料の一つですが、図鑑を繰り返し見ること、その分野の知識の基礎を身につけることができます。同じ図鑑を繰り返し借りる児童の話や聞くと、驚くほど詳しい説明をしてくれることがありますし、本人も喜んで学んでいるのが伝わってきます。この学習を糸口にして、そんな児童が増えてくれると嬉しいです。



保護者の皆様へ「読み聞かせで橋を架ける」

1年生の教室から、詩を音読する元気な声が聞こえてきます。小学生は、目から、耳から、どんどん新しい言葉を吸収していきます。美しい言葉にたくさん触れてほしいものです。

ただ、言葉をたくさん吸収することと、文をすらすらと理解できることは同じではありません。子どもと本を結ぶ活動を長く続けてこられた尾野美千代さんは、著書の中で「5歳にもなれば、心の機微も感じ取れるようになり、「理解力」はほとんど一人前と言えるでしょう。読み聞かせてやれば10分ぐらいの物語も楽しめます。けれども、その同じ物語を自分で読みこなせるようになるのは、まだまだ先のことです。文章を読んで内容を把握する「読解力」は、時間をかけて習得しなければならないのです。」と書かれています。そして、大人が読み聞かせをすることで「理解力」と「読解力」の溝に橋を架けることができるのだ、とも言われています。

朝読書でも、隣に座り、小さな声で読み聞かせをすることがあります。耳から聞くことで、どの子も短い時間でずっと本の中に入ることができます。だれかに読んでもらうことで、文字をひろい、文章として理解するという苦勞をせず、全力で想像の世界に飛び込むことができるのでしょう。その想像の世界にすっぽりと包み込まれる感覚こそが物語の楽しさの本質だと思います。

本を読んでもらった、絵本や物語は楽しい、自分でも読んでみたい。子どもたちがそう思えるよう、家でも学校でも大人がたくさんの橋を架けてあげられるといいなと思います。

なになに、どんな本?



どう読むの? どんなおはなし? 思わず読み返してしまう
ふしぎな題名の本を集めました。

低学年

『だくちるだくちる』

V・ベレストフ/原案 阪田寛夫/文 長新太/絵
福音館書店



「にんげんが うまれる
ずっと ずっとまへのま
え」イグアノドン、自分以
外、誰にもあったことがなく
てさびしかった。そこにあら
われたのは小さな翼竜の
プテロダクチルス。火山が
爆発する音しか知らなかつ
たイグアノドンの初めての
友だち。

『なずず このっぺ?』

カーソン・エリス/作 アーサー・ビナード/訳
フレーベル館



野原に出てきた一本の
芽。そこに虫たちが集まっ
て話し始めます。「なずず
このっぺ?」「プクロニ お
げむん。」「わっぱど が
ららん。」「なやま プクロ
ニ?」最初から最後まで
何を話しているかちっと
もわからないけれど、とに
かく楽しい絵本です。声
に出して読みたい一さつ。

中学年

『みしのたくかにと』

松岡享子/作 大社玲子/絵 こぐま社



ふとっちょのおばさん
が、ひろったタネを植え
ました。スイカかな、ア
サガオかな。そこにとお
りかかったのは、勉強
のしすぎて顔色の悪い
王子さま。王子さまは
畑の立てふだを読みま
した。「みしのたくかに
と」。

高学年

『かはたれ』

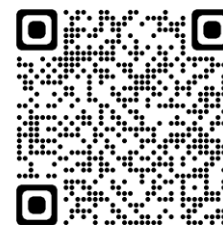
朽木祥/作 山内ふじ江/画 福音館書店



ひとりぼっちで暮らす河童
(かっぱ)「八寸」は、修行
のために猫に化け、人間の
町で暮らすことになった。そ
こで出会った少女麻は、母
親を亡くしたばかりで、悲し
みで自分の気持ちすらはっ
きりつかめない日々を
送っていた。河童と少女、寂
しい二人の静かな友情物
語。

第69回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書
が選定されました。低・中・高学年に分かれて各4さつづ
つとなっています。学校図書館に1さつずつありますので、
表紙やあらすじでいいなと思うものがあれば、読んでみ
てください。最初からこの本で書く、と決めてしまうので
はなく、何さつとも読んでいくなかで「これで感想文が書か
たい」と思える本に出合えるといいですね。

出品の詳しい説明は、後日「夏休みコンクール(お知らせ
せ)」のプリントが配られますので、そちらをご覧ください。



公式サイトは
こちらから

図書館だより



7月号

2023年7月11日
安田小学校図書館

■夏休み特別貸出

夏休みに向けて、本の特別貸し出しを行います。
期間内は毎日2冊貸し出しをしていますので、いろいろと借りかえてみて、長いお休みにぴったりの本を見つけてください。

期 間： 7月10日(月)
～7月22日(土)

返却期限： 9月1日(金)

冊 数： 2冊



バッタの飼い方を調べています。どんな草を食べるのかな。

保護者の皆様へ「夏休み前のお知らせ」

いつもより家族で過ごす時間が増える夏休みに、お子様と一緒に本で遊んでみませんか。

みんなが読んでいる本をリビングに飾ってみる、本文に間違いを入れてあてっこをしてみる、おすすめの本を手紙に書いて送りあってみる。これらはどれも学校でやっていることですが、家族でやっても面白いに違いありません。お子様はきっと「家族もみんな本が好きだ。」と感じることと思います。共に読まれて、内容や感想などを交換しあうのは、物事に対する価値観や考え方を確かにし、子どもの健全な心を作っていくうえで大切なことです。この夏、素晴らしい読書体験ができますように。

○1学期に借りた本を一度すべて返却することになっています。期限が切れている本がないか、連絡袋に入っているしおりをお子様と一緒にご確認ください。

○児童は夏休み用の本を2冊借りて帰りますが、保護者の皆様にも本を貸し出します。懇談にいらした際、ぜひ2階図書館へもお立ち寄りください。

貸出時間： 16:30まで
冊 数： 1児童2冊まで
最終返却日： 9月1日(金) お子様づつで返却してください

○1・3・5年生に、こども図書館が作成したブックリストを配付します。3年生は図書館見学にも行きました。図書館に対する興味が高まっているこの時期、ご家庭でも足を運ぶことでお子様の視野を広げることができると思いますので、機会があればお出かけください。

読書感想文 課題図書

第69回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書の中から、いくつか選んで紹介します。

低学年

『よるのあいだに…』

みんなをささえる はたらく人たち』

ポリー・フェイバー/文 ハリエット・ホプダイ/絵
中井はるの/訳 BL出版



わたしがねているとき、いろんな人が仕事をしている。掃除をする人、警察官、ニュースのレポーター……。みんなの暮らしを支えるために、ほこりをもって夜はたらいっている人たちがいる。絵本をみてごらん、止まらずに動いている町の音が聞こえてくるよ。

『けんかのたね』

ラッセル・ホーバン/作 小宮由/訳
大野八生/絵 岩波書店



仕事を終えたお父さんが家に帰ってみると、四人の子どもたちが大げんか! 「わたしは、わるくない!」「ぼくのせいじゃない!」くちぐちにさけぶ子どもたちから話を聞いてみると、あらふしぎ、みんななかよくなっちゃった。1年生でも読みやすい、にぎやかな絵本で読む。

中学年

『秘密の大作戦!』

フードバンクどろぼうをつかまえろ!』

オンジャリQ・ラウフ/著 千葉茂樹/訳 スギヤマカ
ナヨ/絵 あすなろ書房



冷蔵庫にも戸棚にも、食べものが一つもない。そんな「ぎりぎりの月」にぼくら家族が行くのは、「フードバンク」。そこでは、ただで食べものがもらえるんだ。ところが、その大切な場所になんとどろぼうがはいっているらしい。

『給食室のいちにち』

大塚菜生/文 イシヤマアズサ/絵 少年写真新聞社



午前7時30分、調理員さんは体調を調べて、みだしなみを整えます。今日の給食はカレーライス。8人で450人食を作ります。絵本の中で働く調理員さんは、みんな笑顔で、おいしく安全な給食を届けるために力を合わせていることが伝わってきます。さあ、調理開始!

高学年

『5番レーン』

ウン・ソホル/作
ノ・インギョン/絵
すんみ/訳
鈴木出版



スイミングに人生をささげている6年生のナルは、全国大会でライバルのキムにまたも負けてしまう。どうしても敗北を認められないナルは、一人になった更衣室でキムの水着を手にとった。あこがれの姉のドロップアウト、初めてのデート、むくわれない努力。まぶしい小6の今を切り取った小説。

『魔女だったかもしれないわたし』

エル・マクニコル/著 櫛田理絵/訳 PHP研究所



「人とかうと、裁判にかけられて有罪にされる可能性があった」。自分の町で行われた昔の魔女裁判に衝撃を受けたアディは、魔女の慰霊碑を作ることを村の委員会で提案する。裁かれた魔女を「わたしみたい。」と感じる「自閉的」なアディは、自分らしくいられる生き方を見つけていくことができるのか。

図書館だより



9月号

2023年9月26日
安田小学校図書館

理科の虫眼鏡を使って、セミのぬけがらを観察。

教育実習の先生も本を読んでくださいます。

休み時間に、みんなに読み聞かせ。先生も一緒に。

保護者の皆様へ「親子読書について」

夏休み前の貸し出しで、たくさんの保護者の方とお話をすることができました。今まで皆様と、ゆっくりと対面で本についてお話しする機会がなかったので、とてもうれしく感じました。いただいた声を大切にして、図書館教育を進めていきます。

さて、今回の親子読書ですが「食えること」と「戦争」にかかわる本を読まれた方が増えたと感じました。「食えること」は、給食の残菜に関連付けてあるものが多く、特に読書感想文の課題図書でもあった『給食室のいちにち』（大塚菜生/文 イシヤマアズサ/絵 少年写真新聞社）が学年をこえて読まれていました。

「戦争」は、広島や日本の話がよく選ばれていました。戦後78年がたち、被爆体験をどう引き継いでいくのかについて試行錯誤がなされています。日本の児童書でも時代とともに変化があり、以前主流だった、主人公が直接戦争を体験するという文学が、最近では見られなくなってきています。世代を経るごとに記憶は薄れていくものだと思いますが、ウクライナとロシアの戦争で子どもたちが心を痛めている今、大人が平和について伝えていく意義は大きいと思います。

裏面に親子読書の中からいくつか選んで掲載しておりますのでご覧ください。

運動会にまっしぐら



運動会まであとすこし、本の中でも運動やチームワークを考えよう！

低学年

『いたずらかんしゃちゅうちゅう』

バージニア・リー・パートン/ぶん・え
むらおかはなこ/やく 福音館書店



ちいさなかんしゃ「ちゅうちゅう」が、「おもい きゃくしゃなんか ひくのは ごめんだ。」と逃げ出すお話。「ちゅうちゅうしゅっしゅ」という擬音とともに場面いっばいに走るかんしゃを見ていると、思わず自分も「ちゅうちゅうしゅっしゅ」と言って走り出したくなってしまいます。

高学年

『ぼくらの一歩』

いとうみく/作 イシヤマアズサ/絵 アリス館



30人全員が足をバンドで結んで走る「30人31脚」を題材にした物語。クラスが一丸になれば記録が出ない競技をやることに決めた6年1組だったが、一人一人の考えの違いがきっかけになって、チームは空中分解寸前。大会では目標の八秒台を達成できるのか。

中学年

『体育がある』

村中李衣/作 長野ヒデ子/絵
文研出版



体育のがあるたびに暗い気持ちになる「あこ」は、とびばこもさかあがりも苦手。そのことを家では思いついたくないのに、ママははりきって「じゃあ、練習しなきゃ」って言う。なんとか体育から逃げようとする「あこ」の独り言がくすくす笑えて、最後はすがすがしい気持ちになれる小説。

『個性ハッケン! 1. スポーツで輝く』

田沼茂紀/監修 ポプラ社



第一線で活躍する人にインタビューするシリーズのスポーツ編。元陸上競技選手やプロ野球監督が、自分の長所や短所がどこなのかを言葉にして子どもたちに届けます。完璧に見えるアスリートが弱い部分をどうキャリアに生かしているのかが知ることができます。

■シリーズの本が大好き！（1年生）

1年生にシリーズの本を紹介する授業がありました。紹介したのは『ぐりとぐら』『わににわに』『うまれたよ！』『わんぱくだん』ひさかたチャイルド、『おさる』講談社、『ぞくぞく村』あかね書房などです。1年生でも次々に読めそうな楽しい本ばかりで、1年生は「読みたい!」「続きを読んで!」と声を上げていました。



『うまれたよ!ヘビ』
関慎太郎/写真・文 岩崎書店

図書館だより



10月号

2023年10月23日
安田小学校図書館

■伝記から先人の生き方を学ぶ（6年生）

6年生が伝記を読んで新聞をつくる学習に取り組んでいます。

子どもたちは、200冊近く用意された伝記の中から、自分だけの1さつを決めました。もともと「この人！」と決めていた子どももいれば、「医療」「平和」「スポーツ」といった分野の中から、全く知らない人物の伝記に挑戦する子どももいました。

運動会でも最上級生らしいリーダーシップを発揮して、今、心が大きく成長している6年生ですから、先人の人生から多くのことを学び取ってくれることと思います。こんな生き方がしてみたいというロールモデルの一つとなればうれしいです。

右側にそれぞれの分野の中から1さつずつ選んで児童の文章と一緒に紹介しています。お読みください。



■友だちに本を紹介（2年生）

「友だちにも本を紹介したい。」という児童の声を受けて、2年生で本をお互いに紹介する授業が設けられました。授業で使ったプログラミングの本や、親子読書、リーディングビジットで読んだ本など、思い思いの本を持ち寄った子どもたち、ある班では、一緒に「じゅげむじゅげむごこうのすりきれ……」と口ずさむ場面も見られ、楽しい雰囲気の1時間でした。



保護者の皆様へ《本の修理について》

本のページが破れてしまった時、修理にセロテープを使用しないでください。セロテープで直すと、数年後に粘着剤が劣化して、紙が茶色く変色してしまいます。10年20年と本を使い続けるために、専用のテープで修理します。ご家庭で直さず、カウンターまで届けるようお子様にお伝えください。

本が破れるのは悲しいことですが、図書館ではそれをとがめることはしません。破れたことを隠さず「破れました」と伝えられる子どもに育ってほしいと思っています。

『神谷美恵子

ハンセン病と歩んだ命の道程』

大谷美和子/著 くもん出版



この時代は大正時代で、神谷さんは裕福な家庭に生まれて、将来を期待されていました。流行していたハンセン病にかかるリスクがあるのに、まっすぐに、医者という職業に就きたいと心を決めてやり通すところが心を打たれました。自分だったらそんな強い決意ができなくて人に流されてしまうけれど、この本を読んで私も強い意志を持っていこうと思いました。

『夢を掘りあてた人

トロイアを発掘したシュリーマン』

インゲ・フォン・ヴィーゼ/作 大塚雄三/訳
アルバン・ゲルナー＝カルフ/絵 岩波書店



最初シュリーマンは、お父さんにトロイアの遺跡は存在しないということと言われていたけれど、あると思って探し続けた結果、自分が知りたかった以上に遺跡を深く知ることができた。普通の人だったら無いと言われたら無いと思ってしまふかもしれないけれど、お父さんの言う事とは違う事をした彼は、自分をつらぬく人だと思った。自分は、貫けていないので、シュリーマンにならって挑戦してみようと思った。

『ヒロシマをのこす

平和記念資料館をつくった人・長岡省吾』

佐藤真澄/著 汐文社



最初は原爆の話だったので怖そうと思った。広島ではなく山口県出身だったのに、広島市の原爆を伝えることにたずさわったのですごい人だと思った。自分だったら放っておくかもしれない。

周りの人に何か言われても、負けずに資料を集めていたから意志を貫く人だなと思った。

『新スポーツスーパースター伝 柳田悠岐』

ベースボール・マガジン社/編
ベースボール・マガジン社



僕がこの本を選んだのは、柳田選手が好きだからです。つねに得点をもとめて、フルスイングをして、ホームランをねらうところがカッコいいです。この本を読んで、努力をすれば、将来やりたいことができるのだと思いました。僕は、プロ野球選手か医者になりたいので、努力をして夢をかなえたいです。

『棕鳩十

生きるすばらしさを動物物語に』

久保田里花/文 あかね書房



私は、5年生で習った『大造じいさんとガン』というお話が好きだったので、棕鳩十にしました。棕鳩十は長野県で生まれました。本名は久保田彦穂といいます。鳩十の家は旅芸人の一座などの人が泊まって、とても賑やかな家でした。そういうところで育ったから、お話のアイデアが浮かんだんだと思います。みんなに棕鳩十のお話を読んでもらいたいです。

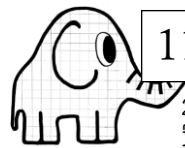
『宮本武蔵』

砂田弘/著 岡本順/絵 ポプラ社



宮本武蔵が吉岡一門と決闘するシーンで、吉岡一門が百人を用意するにもかかわらず、宮本武蔵は一人で迎え撃つところが心をうたれました。敵の心を読んで、裏をかいて敵の大將だけを撃って逃げたことが予想外で、もし自分なら対抗できるだけの人手を集めて戦うのに、武蔵は一人でいどむところがかしこいなと思いました。

図書館だより



11月号

2023年11月8日
安田小学校図書館



その1

図書委員会の よみきかせ

2階たたみコーナーで、
図書委員会が絵本や
紙しばいを読みます。

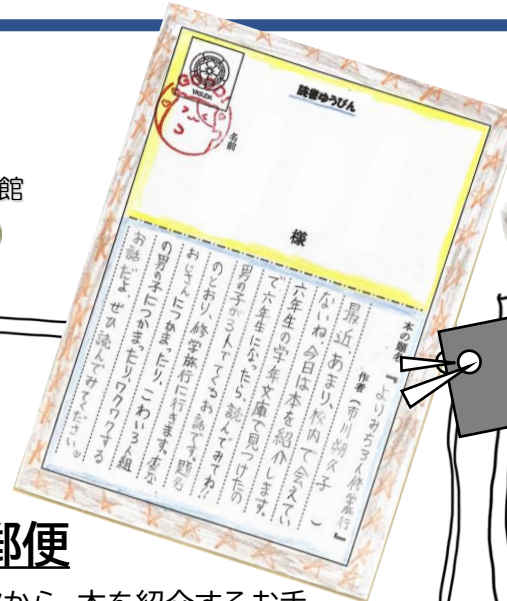
場 所:たたみコーナー
時 間:大休憩



その2

読書郵便

なかよしペアから、本を紹介するお手
紙がとどきます。おすすめされた本を
読んで、なかよしペアとおはなししてみ
ませんか？



その3

図書委員会による ストーリーラリー

たいへん！学校のあちこちに、絵本の
ページがちらばっちゃった。ばらばらの
ページを見つけて、クイズにちょうせん
しよう。

場 所:1階・2階
時 間:大休憩

読書まつりがはじまるよ！
11月13日～11月24日

図書館に
おいでよ!!

その4

おはなし給食

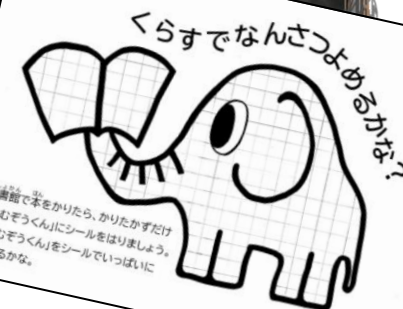
11月13日(月)の給食は、ある絵本に
出てくるスープが食べられるよ。
いったいどんなスープ
が出てくるでしょうか。

当日の朝読書の時間に、
全校放送でこの絵本の
よみきかせをします。

その5

クラスでこんなに よめたよ

クラスにくばられた「よむゾウくん」
のマス目を、読んだ本の数だけ
ぬりましょう。
それぞれのクラスで、何色の
「よむゾウくん」ができあがるかな。



図書館だより



12月号

2023年12月11日
安田小学校図書館

■友だちに本を紹介（4年生）

4年生が図書の授業で本の紹介バトルを行いました。お気に入りの本を1人2分で紹介しあい、一番読みたいと思った本に投票するもので、班での予選、決勝戦を経てクラスでのチャンピオンを決定しました。

好きな本を準備したこともあり、考えていることを生き生きと話している姿があちこちで見られました。人前で話すのが苦手な児童もありますが、その本への想いが伝わって、班での代表に選ばれる場面もありました。きっと、自分の心からの言葉で話したことが、相手につたわったのでしょうね。

たくさんの人が学校図書館や学年文庫にある本を選んでいただことも嬉しく感じました。



同点だったときはじゃんけんで班の代表を決めました。どちらが勝つか真剣勝負です。

本をただしく もどしていますか？

本を本だにもどす時は、ブックエンドの中に入れましょう。背ラベルを見ても返す場所がわからない時は、いつでもカウンターに言ってください。いっしょに正しい場所にかえしましょう。

保護者の皆様へ《冬休み特別貸し出しのお知らせ》

懇談の期間中に、保護者の皆様へ本の貸し出しを行います。
16:30まで図書館を開館しますので、気軽にお立ち寄りください。
皆様と本の話ができるのを楽しみにしています。

冊数：お子様1人に対して2冊まで
返却日：1月12日（金）
お子様を通してご返却ください。



ひとり旅 ふたり旅



低学年

『あおい目のこねこ』

エゴン・マラーセン/作 セタていじ/訳 福音館書店



「ねずみのくに」をさがす旅に出たこねこの短いお話です。こねこは、途中でおなかがかすいても、だれも助けてくれなくても、へこたれません。だって、こねこは自分が何をしたいのかがよくわかっているから。「おもしろいことをしてみよう。なんにもなくても、げんきでいなくちゃいけないもの」そんな言葉に元気をもらえる読み物です。

中学年

『ちびっこカムのぼうけん』

神沢利子/作 山田三郎/絵 理論社



母さんの病気を治すことができるイノチノクサを手に入れるためには、大男のガムリイが住む「火の山のとっぺん」に行かなければなりません。小さな男の子カムは、山よりも大きなガムリイとどうやって戦うのでしょうか。

ロシアのカムチャッカ半島に着想を得た、壮大な冒険物語。

高学年

『星屑すぴりっと』 林けんじろう/著 講談社



小さなアリにも気をつかう優しい従兄が難病にかかった。中学生のイルキは、偶然知りあった同級生のハジメの手を借りて、従兄が見たいとひそかに願っている映画を探す旅に出た。行先は京都。親に内緒で青春18きっぷを握りしめた2人は、真冬の朝、始発の尾道駅から電車に乗り込んだ。

『ふらいばんじいさん』

神沢利子/作 堀内誠一/絵 あかね書房



たまごを焼くのが大好きだったフライパンのじいさんは、新しいめだまやきなべにその役目を取られてしまいます。悲しくなったじいさんは「あたらしい せかいで、だれかが わしを まっているかもしれない。」と考えて家出をします。ジャングル、さばく、海。じいさんの新しい世界は見つかるのでしょうか。

『黒ねこサンゴロウ 旅のはじまり』

竹下文子/作 鈴木まもる 偕成社



ひとり旅が好きで小学生のケンはお父さんのところに行く電車の中でねこに出会います。二本足で歩いて、しゃべるクールなそのオスねこ「サンゴロウ」は、地図に書いてある宝物を探すために、この先の駅で降りるというのです。

10冊ある『黒ねこサンゴロウ』シリーズの第1巻。1巻完結の物語です。

『「また、必ず会おう」と誰もが言った。』

喜多川泰/著 サンマーク出版

自分がついた嘘をごまかすためだけに東京に行った僕は、帰りの飛行機に乗り損ね、3400円の所持金とともに街に放り出された……

一人で他人と関わらなければならない状況におちいった高校生の成長がまぶしい青春小説。読み終えたあと、思わずとなりの見知らぬ人に話しかけてみたくなる、そんな本です。

図書館だより



1月号

2024年1月24日
安田小学校図書館

■自分たちでイベントを考える

図書委員会の発案で、折り紙でしおりをつくるイベントを休憩時間に行いました。ポスターを作ったり、手伝いをお願いしたりとこつこつ準備したおかげで、図書館に来た人が喜んでくれる会になりました。



■本を紹介しよう（3年生）

冬休みにたくさん読んだ本の中から、一番好きな本を、お友達に紹介する授業がありました。親子読書と読書の記録の中から選んだ1冊をもとにして、タブレットで原稿を作ったのですが、本選びで悩む児童はほとんどいませんでした。それだけしっかり読書に取り組むことができていたのだと思います。

3年生は、4月と比べると、本の選び方に個性が出てきて、高学年の読書に向けての準備ができはじめている様子が見えます。周りとは比べず、一読してすんなりと内容が理解できるような本を、この時期にたくさん読んでほしいものです。



↑楽しみにしている、授業前の読書間かせ



保護者の皆様へ《冬休みが終わって》

冬休み前の貸し出しでは、保護者の方々と本の話をするのができ、楽しい時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

家での読書の様子を保護者の方々から伺ったことと、冬休み明けの子どもたちの授業での様子を見て、家と学校の読書はつながっているのだと感じました。学校での貸し出しだけでなく、そういったことも考えながら、読書支援をしていきたいと思います。何かありましたら、いつでもお声がけください。

千支の本



低学年

『りゅうのめのなみだ』

浜田広介/文 いわさきちひろ/絵 偕成社



みんながこわがる恐ろしい「りゅう」を、自分のたんじょうび祝いに呼びたい。そう思った男の子は、りゅうの隠れ家に行こう言いました。「ぼくは おまえさんを にくみは しない。いじめは しない。」

『泣いた赤おに』を書いた浜田広介らしい優しく美しい童話です。

『ほしになったりゅうのきば』

蕭甘牛/採話 君島久子/再話 赤羽末吉/画 福音館書店

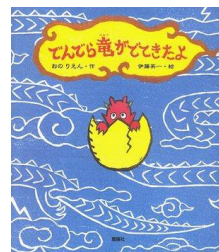


むかし、二匹の巨大なりゅうがあばれて、空がやぶれてしまいました。主人公のサンは、村のみんなを守るために、天のさけめを直す方法を見つける旅に出ます。日本の民話と比べると、登場人物も、天のさけ目を直す方法も大胆！中国の広い国土を感じさせる、スケールの大きな民話です。

中学年

『でんであ竜がでてきたよ』

おのりえん/作 伊藤英一/絵 理論社



「でんでらりゅうば でてくるばってん♪」この歌を知っていますか？女の子がこの歌を歌いながら紙に書いた卵から、コーンコンと音がして、なんと小さな「でんでら竜」が生まれてきたのです。その竜は、紙のようにペラペラで弱虫なのに「ながさきにく。」といいはじめました。

高学年

『シノダ!チビ竜と魔法の実』

富安陽子/作 大庭賢哉/絵 偕成社



豪快なママ（本当はキツネ）のんきなパパ（人間）、3人の子どもの信田ファミリーは、いつもやっかいごとに巻き込まれます。今回はお風呂場に住み着いたちびっこ雲竜のお話。このシリーズが大好きな6年生から「2巻目はさらに面白いです!」との声。スピード感のある面白い話が好きな人におすすめです。

『ドラゴン学』

ドゥガルド・A・スティール/著 今人舎

個体数の激減で、もはや伝説の生きものとなりつつあるドラゴンについて、ドラゴン・マスターであるアーネスト・ドレイク博士が書き記した書物。ドラゴンの分類、生態、生息地等、この学問を学び始めるにあたっての足掛かりとなる知識が網羅されている。この本の目的は、博士が生涯をかけて得たドラゴンの知識を伝授し、残り少なくなったドラゴンを保護する人間を育てることである。

図書館だより

2月号

2024年2月22日
安田小学校図書館



知的書評合戦 ビブリオバトル

6年生の国語の授業でビブリオバトルを行いました。最近よく耳にするこのイベントは、京都大学の研究室で生まれました。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチコピーとしていて、発表者は5分の持ち時間で本を紹介し、そのあと2～3分の質疑応答を行います。

ビブリオバトルに向けての本選びが始まると、何人もの人が図書館に本を探しに来ていました。

6年生が選んだ本の題名は、図書館に展示します。本選びの参考にしてください。

—— 6年生に感想を聞きました ——

私はビブリオバトルを通して、人前で自分の言いたいことを伝えるということは楽しいなと思いました。もともと私は人前で自分の意見を言うということは大の苦手でした。でも、ビブリオを实际やってみてとてもきんちょうはしたけど、自分の言いたいことをいえてスッキリしたし楽しかったです。卒業まであと少しの授業でも自分なりの答えを出し、積極的に授業に参加したいと思います！



■各学年の授業の様子



1年生は『アベコベさん』でアニメーションをしました。絵本にでてくる楽器や服が、どの登場人物のモチ物かをあてるゲームです。みんなでわいわいともり上がって楽しみました。



2年生の授業では、児童が本を見て作ったフェルトのマスコットが紹介されました。読むだけでなく、本に載っているものを実際に作ってみたいところが良いですね。



3年生は『びゅんびゅんごまがまわったら』の読み聞かせをしました。写真は、昼休みにびゅんびゅんごまの回し方を4年生に教えてもらっているところです。

オーストラリア



『みてみて!クオッカ』

世界いち しあわせな どうぶつ

福田豊文/写真 なかのひろみ/文 ほるぷ出版



クオッカは、「きゅっとあがった口もとが、にっこりわらっているようにみえる」カンガルーのなかま。オーストラリアに住んでいます。どの写真もかわいのですが、ねむっているすがたが変わっていてびっくりします。

『世界のともだち オーストラリア』

阪口克 中山茂大/写真・文 偕成社



ドイツ系オーストラリア人であるロッテンマイヤー家の生活を紹介する知識絵本。海や生き物にかこまれて、のびのび暮らしている様子が、とても自由で楽しそう。オーストラリアに住む人は、日本とは違った価値観をもっているのかもしれない。

『世界の民族絵本集』

つるになった少年

アローン・レイモンド・ミークス/文・絵
くどうなおこ/訳 河出書房新社

「まだ世界ができたてだった」大むかし、少年が森のなかで鳥たちの集まりを見ました。その集まりはひみつの集まり。そこにきた鳥たちの体は、次々にあざやかな色にそまっていくのです。

アボリジニの画家である作者ならではの、赤を基調にした力強い絵が印象的な昔話絵本。

『ぼくのあいぼうはカモノハシ』

ミヒヤエル・エングラール/作 はたさわゆうこ/訳
杉原知子/絵 徳間書店

ドイツに住むルーフスは、ある日人間の言葉をしゃべるカモノハシを拾います。一見すごく頭が良さそうなのに、とんちんかんことをするカモノハシの「シドニー」の願いは、ふるさとであるオーストラリアに帰ること。海をはさんだオーストラリアに、二人はどうやってたどり着けばいいのでしょうか。

姉妹校のレディー・マ小学校(オーストラリア)から10冊の絵本が安田小学校にやってきました。絵本は国によって、絵の雰囲気や手書き文字が全く違うので、パラパラとめくるだけでも発見があります。借りることもできますよ。



英語科 善光先生のおすすめは？

一番のおすすめは『The Monster Game』という絵本です。寝る時にモンスターを想像してしまいねえなくなった子のための、ゲームのような本です。まずはモンスターを想像する。その後は何か面白い倒し方を考えてモンスターに消えてもらいます。英語が読みにくくても、絵が面白くて分かりやすいです！

図書館だより



3月号

2024年3月14日
安田小学校図書館

ご卒業おめでとうございます

6年生のみなさんが5年生の時、リーディングビジットで『エパミナンドス』を語ったことがあります。最初は緊張して私を見ていたみなさんでしたが、お話が進むうちに、雰囲気はほぐれて、最後は大笑いで終わりました。今でもあの時間を思い出すと、私は幸せな気持ちになります。朝読書でも読み応えのある本を選んでいる人がたくさんいました。安田小学校の朝読書は6年生が引っ張ってくれるから安心だ、と頼りにしていました。

みなさんが6年間で出会った知識や物語や詩が、この先、目に見える形で役に立つことはないかもしれませんが、でも、そういったものがあなたの人生の根っこを支えてくれる大切なものになるのではないかと思います。

あなた方が折に触れて思い出するような、そんな素敵な文章に、この先も出会えることを祈っています。



今年度の貸出・返却について

春休みは本の貸し出しを行いません。もしまだ図書館の本を持っている人がいたら、すべての本を返してください。

間違って持って帰っている図書館の本は家にありませんか？バーコードや背ラベルの付いた本があったときは、カウンターにもってきてください。

保護者の皆様<1年間ありがとうございました>

この1年間、図書館教育へのご理解とご協力をありがとうございました。

4月の図書館だよりで、「クラス、学年、そして学校全体で本の話が飛び交うような雰囲気づくりをして、本好きな子供をもっと増やしていきたい」と書きました。1年がたって、最近「おすすめの本ありますか？」と聞いてくれる児童や、「こんな本を今読んでいるんですよ。」と紹介してくれる児童がとて増えました。嬉しく感じています。

来年度も、一人一人の興味に寄り添った選書を心がけて、子どもたちと一緒に図書館を育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

おすすめの本

今年度、司書が読んだ本の中で、図書館だよりで紹介できなかったおすすめの本をお知らせします。

『すばらしいとき』

ロバート・マックロスキー/文と絵
わたなべしげお/訳 福音館書店



海や生き物、風、そんな自然に囲まれた島での夏の休暇が、おおらかな絵でのびのびと描かれています。キャンプに行く前に読むと楽しいかもしれません。著者のマックロスキーは『かもさんおととり』や『サリーのこけもつつみ』で有名なアメリカの絵本作家です。

『かあさんうさぎと金のくつ』

デュボース・ヘイワード/作 マージョリー・フラック/絵 いしぞねりえ/訳 徳間書店



イースターの日に、子どもにタマゴを届ける特別なウサギを知っていますか？すべてのウサギがあこがれるこの役にえらばれたのは、かしこく心優しいかあさんウサギ。でも、いなかで子どものめんどろを見ていたお母さんにそんな大変な仕事がつとまるのでしょうか。

『地球がうみだす土のはなし』

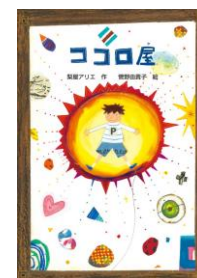
大西健夫 龍澤彩/文 西山竜平/絵 福音館書店



ふかふか、ざらざら、しっとり。土を触ると、その手触りはいろいろです。においも土によってさまざまです。では、土はいったい何でできているのでしょうか。この本は、土がどうやってできているのか、また、生き物と土はどんな関係なのかをわかりやすく教えてくれます。

『ココロ屋』

梨屋アリエ/作 菅野由貴子/絵 文研出版



「ココロを入れかえなさい」友だちとけんかをして怒られたひろき。その前に、たくさんの心をワゴンに乗せた「ココロ屋」があらわれます。どんな心とでも取り換えることができると言われて、ひろきはやさしいココロを試してみますが……続編もあります。

『窓際のトットちゃん』

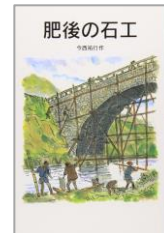
岩崎ひろ/絵 黒柳徹子/文 講談社



学校の窓からチンドン屋さんに大声で話しかけ、小学校一年生なのに退学になったという型破りなトットちゃん。そんなトットちゃんを迎えてくれたのは、子ども一人一人の考えを大切にしてくれるトモエ学園でした

『肥後の石工』

今西祐行/作 岩波書店



江戸時代、肥後の国（熊本県）で作られたアーチ形の橋。その橋には隠された秘密があった。秘密を知る石工の三五郎と、三五郎の身代わりとなって殺された父を持つ2人の子どもの話を主軸に、物づくりに対する人々の情熱を書き出した時代小説。